

子どもの姿	ねらい	行事	長時間保育	地域との関わり	自己評価
<p>○連日猛暑が続き、水遊び、プール遊びなど水の感触を味わいながら十分に楽しむことができた。友だちに励まされたり、達成感を味わいながら顔を水につけたり、ピーと板でバタ足をするなどチャレンジする姿が多く見られ自信へと繋がっている。また水分補給や休息を取りながら体調管理に気を配ることで体調を崩すことなく元気に過ごすことができた。夏季休暇の為少人数の日や夏祭りなど異年齢の活動が多く、一緒に遊ぶ楽しさの中で関わりを深めることができた。物を大切にすることができるよう片付け場所を整えたり、分かりやすく表示したりして丁寧に片付けができるよう取り組んでいる。夏祭りのちようちん作りやおぼけの製作など意欲的に行い、出来上がりを喜んでいた。</p>	<p>○夏の疲れや気温の変化に注意しながら、一人ひとりの健康状態に気を配り、残暑の時期を気持ちよく過ごせるようにする。 ○友だちと一緒に身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○身近な自然に興味をもち、夏から秋への季節の移り変わりを感じる。 ○運動会への意欲を高めながら、音楽に合わせて、表現する事を楽しむ。</p>	<p>3日(月)プール閉まい 7日(金)・28日(金) 英語で遊ぼう</p>	<p>○疲れが出てくるので、ゆったりと過ごせるようにする。 ○甘えたい気持ちに寄り添っていく。</p>	<p>○散歩へ出掛けた際、地域の方に挨拶をする。</p>	
内容	環境構成	保育士の配慮			取り組みの状況と保育士の振り返り
<p>○一人ひとりの健康状態を把握し、体調に合わせて休息をとりながら、快適に過せるようにする。 ○気温や活動に合わせて、自分で衣服を調整できるようにする。 ○友達や保育者と一緒に身体を動かすことを楽しみ自分の目標に向かって最後まで取り組む。(鉄棒・大縄跳びなど) ○簡単なルールのある遊びを保育者や友だちと一緒に楽しむ。 ○安全のルールを理解し、気をつけて行動しようとする。 ○秋の空の色や雲の形、虫や草花、園庭や散歩先で採取した種に興味をもち、観察したり、遊びに取り入れたりする。 ○自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを聞いたりしながら相手の気持ちに気付く。 ○異年齢と一緒に遊んだり活動したりする中で、親しみをもち、関わりを深める。 ○人の話を注意して聞き、聞いた内容を理解する。 ○リズムに合わせて体操したり、踊ったりする。</p>	<p>○心地良く休息がとれるように、室内外の温度差に合わせて、空調を用いたり、換気を行ったりする。 ○着替えの支度や衣服の始末などがスムーズに行えるように、スペースを確保する。 ○様々な運動遊びを取り入れ、目標をもって取り組めるようにする。 ○ルールのある遊び方をする機会を作り、継続する ○生活に必要なルールを教える ○虫や草花等をすぐに調べられるように、散歩の携帯図鑑を持って行ったり、手に取りやすい所に図鑑を置いたりしておく。虫の観察ケースや花器を用意しておく ○種を分類して容器に入れ、子どもが取りやすい場所に置く。(カップ・トレー) ○言葉で気持ちを表現したり、聞いたりする場をつくる。 ○生活や遊び、活動を通して、異年齢児と関わり活動する機会を多く持つ。 ○話を聞く際は話を聞く姿勢を伝え、話す人の顔を見るようにする。 ○いつでも体操や踊りに取り組めるように曲を用意しておく。</p>	<p>○残暑が厳しいので気温が高い時間帯は、室内で過せるようにしたり、夕方の涼しくなる時間帯には、身体を動かす遊びが楽しめるようにしたりする。 ○汗や汚れに気付けない子には、言葉をかけて知らせ、意識を持たせる。 ○運動遊びのやり方やコツを伝えたり、やって見せたりして目標に向かって楽しみながら取り組めるようにする。 ○一緒に遊びながら繰り返しルールを説明し、ルールがあるから楽しいという経験ができるようにする。 ○ルールを守る意味を分かりやすく伝え、状況に応じて繰り返し伝える。 ○空や雲、虫や草花などへの気付きを大切に、子どもが発見した事や、つぶやきに共感していく。 ○種で遊ぶ際は、命を繋ぐ大切さを伝え、残しておく事が出来るように箱等を用意し、来年種まきが出来るようにしておく。 ○鼻に入れたり飲み込んだりしない様に気を付ける。 ○気持ちを引き出して、相手の気持ちにも気付けるような仲介をする。 ○異年齢児との関わりが分からない子には、きっかけをつくって関わり方を知らせ、親しみがもてるようにする。 ○聞いたことを理解し、行動に移せるかを確認しながら話を聞くことの大切さを伝える。 ○運動会に関わる活動に無理なく取り組めるように、個人差に応じながらそれぞれのペースで取り組めるようにする。</p>			
<p>・野菜の皮むき等を通して、食材に触れる。 ・会食を通して異年齢で食事をする楽しさを味わう。</p>	<p>・栄養士と連携し、子どもが皮をむきやすい野菜の準備を行う。 ・テーブルの配置を考えたり、音楽をかけたりして、楽しい雰囲気を作る。</p>	<p>・給食室に出来上がった食材を持っていく等、給食室との関わりを持てるようにし、食材への興味を持てるようにする。 ・異年齢で食事をする楽しさを味わえるように座る位置等を工夫する。</p>			

養護(生・博)教育(健・人・環・言・表)

食育